平成２６年度　　学校関係者評価委員会記録（第２回）

１　期日　　平成２７年２月２０日

２　意見内容

(1)　学校関係者評価委員会の内容について

◎学校だより等で、だいたいの学校の様子はわかっていたが、映像を通して見たことで、子どもたちのために様々なことに取り組んでおられることが分かった。本日の学習発表会で、子どもたちのはきはきした発表や発表の工夫を見ているとその成果が、はっきりと出ている。また、地域のいろいろな方々の応援も活用が良くできているので感心した（老人会会長）。

◎老人会、区長会等、学校関係者の方の参加が充実しており、コミュニティースクールを意識した会の持ち方となっている（小学校教頭）。

◎プレゼンテーション、ＤＶＤまで用意してあり、学校運営の在り方がよく伝わった（小学校教頭、学校評議員）。

◎多くの方々の協力があっての学校運営だと改めて感心した（学校評議員）。

◎地域でのあいさつが、最初よくできていないと心配されていたが、最近は、声が小さい児童もいるが、頭を下げて自然な形でできていると思う。それも、本日の説明で、児童会が中心となって取り組んでおられるからということがよくわかった。地域の方々同士のコミュニケーションも希薄になっている。地域でもあいさつの輪を広げていきたい（自治公民館長代表）。

◎本校も、学校ではあいさつができているが、地域ではなかなかできていない。「いつでも、どこでも、だれにでものあいさつビンゴ」の取組は、参考になった（小学校教頭）。

◎稲作については、田植えや稲刈りだけでなく、一年を通して取り組まれている。また、長年続けておられるし、保育園との交流もある。今後もこの伝統を継承していってほしい（稲作アドバイザー）。

◎ラジオ体操等で、以前は、トラブルもあったが、本年度は、上級生が下級生の面倒をよく見ている（民声児童委員）。

△運動会の放送がよくきこえないことがある。競技の説明をはきはきと聞き取れるようにしてほしい。運動会も保育園、地域が参加する運動会である。学校でこんなにすばらしい取組が行われているにもかかわらず、統合することで、地域に学校がなくなるのは、大変残念なことである（民生児童委員）。

△保護者、児童のアンケートがあって、実態がよく分かった。教師の自己評価も同様な項目であるともっと分かりやすい（中学校教頭、自治公民館長代表）。

△特別支援学校との交流は、互いに理解し合ってよい取組である。本年度、支援学校に訪問を計画されていたが、支援学校の実情で、交流が実現できなかったが、次年度は取り組めるよう進めていきたい（学校評議員）。

(2)　学校経営について

◎サイエンスサポーター、稲作アドバイザーなど、他校にない地域の方々の協力を得て、教育活動が推進されている（学校評議員）。

◎理科教育を中心とした学校運営が昨年度もなされているが、本年度、さらに、充実してきていると感じている（学校評議員）。

◎多くの課題、問題等を反省、対策、実践という形で取り組んでおられる。今後も続けていってほしい（自治公民館長）。

△今もしっかりと取り組まれているが、さらに、学校教育のレベルアップを図るためには、保護者や地域の力をいかに組織的に取り込んでいくかが大事である（保護者）。

◎地域の方にこんなに協力していただき、子どもたちは恵まれている。稲田校区のすばらしさを感じた（保護者）。